
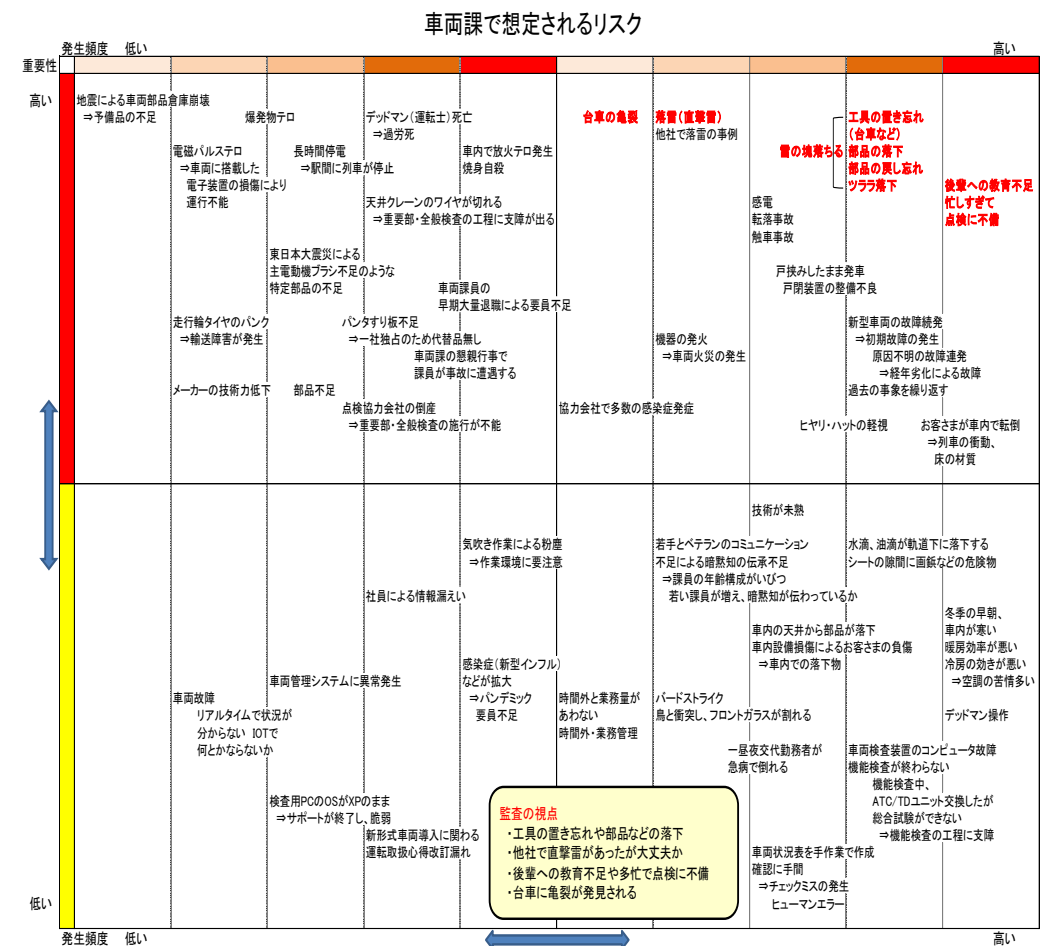


業 種	鉄道・軌道
取組分野	内部監査
テ ー マ	リスクの視点から各部門の取組を確認、充実・強化するための取組（リスクアプローチ監査）
取組の狙い	事前に整理した各部門におけるリスクに対し、現状の取組を確認すると共に、必要に応じて、取組の充実、新たな取組の導入について、各部門と監査部門とが議論を通じて相互に理解し、リスクに対する取組の充実強化を図る。
具体的内容	<p>大阪高速鉄道株式会社では、総務部総務課が事務局となり公益財団法人鉄道総合技術研究所が実施している「運輸安全マネジメント研修」の「内部監査員研修」の修了者を内部監査要員として、法令や内部規則との適合性を重点的に確認する内部監査を実施していたが、平成28年度に安全推進室が発足した機会に内部監査体制を強化している。</p> <p>安全推進室を設置する際に内部監査の手法について監査法人にアドバイスを求めたところ、事故や自然災害等、危機事象の未然防止及び発生時の損失を最小限に抑えるためのリスクマネジメントの観点から、各部門において経営資源をどのように配分し、各種取組を推進することにより、リスクがコントロールされているかを確認する「リスクアプローチ監査」の提案があり、平成29年度から安全に対する取組の有効性の視点に基いた以下に掲げる内部監査の取組を推進している。</p> <p>【リスクアプローチ監査手順】</p> <p>1. 各部のベテラン社員を含む内部監査要員がワークショップ（参加体験型グループ学習）において、各部門に潜在するリスクの洗い出し、リスクの特定、重要課題とリスクの識別を実施し、「リスクマップ」を作成</p> <p><ワークショップ実施風景></p>  <p>※内部監査要員が被監査部署に潜在するリスクの洗い出しを実施</p>

2. 各部門に対する内部監査時に、監査要員が作成した「リスクマップ」に記載された潜在するリスク事象に対する対策が講じられ、社内で許容できるレベルにリスクがコントロールされているか担当者への聞き取り方式により確認

3. リスクアプローチ監査において、指摘事項があった場合は、監査要員と被監査部署により対策や取組を検討し安全管理体制の強化を図る。

<リスクマップの一例>



※縦軸にリスクの重大性、横軸に発生頻度としたマップを作成し、ワークショップにおいて把握したリスクをマップに表示することで潜在するリスクの重要度を見える化している。

- 取組の効果**
1. 業務上の潜在するリスクを掘り起こすことが可能
 2. 監査要員や被監査部署のリスクを予知・発見する能力が向上
 3. 会社経営上のリスクが大きい課題の明確化
 4. 業務上の潜在するリスクへの早期の対処が可能
 5. 事故や危機事象の未然予防が可能

事業者名 大阪高速鉄道株式会社 安全推進室
(連絡先：06-6875-5788)